114
A 4402
5

第八回ノ
第拾回ニ入ル

帰チ其物ヲ用ヒ且其入額ヲ所得ト為チノ権

京都帝国大学
附属図書館

第八回講義

二月十二日

前會ノ講義ニ於テ尋常土地所有ノ権ニ及ムキ且農業開拓上ニ上ノ生財ノ

於テ大ニ其感觸ヲ持チ来ス可キ土地ノ或ル有様ヲ説明シタリ

「英語ニテ「ヨーシュフラクト」又ハ一時ノ所用ニ即チ定期間ノ所有法」

「ユシュフリュキ」「アムヒテオーズ」金額ヲ地主ニ拂フ借地（即チ「イエ、アヘ

ルム」又ハ収納物ヲ制限スル度ノ法ニ拂フ借地）（即チ「メテイヤージュ」又ハ「コロナージュ」パルシ

エール」ノ経済上ニ於テ何ホノ利アリ何ホノ害アルコトヲ述ベタリ今日ニテ

ハ追々徑験ヲ実歴シ来リ且双方ノ約束自由ナレバ次第ニ其不都

合ハ之ヲ除キ去リテ益々利益ヲ増殖セン」又所有ノ権ニ及ブキ一二

アリ茲ニ陳述センカモ是ハ実地ニ於テハ前ニ述ベシ者ヨリモ著シカ

ラザレモ生財上ニ於テ大切ナル感觸ヲ成ス可シ即チ民法ニ所謂土地（セルヴィト）

大蔵省
大正十一年四月
限侯爵鄂寄贈

ノ義務ト名ケルモノナリ

此土地ノ義務ノ内ニテ農業上ニ於テ最切要ナルモノハ（家屋ニ関スル義務ハ姑ク爰ニ掲ケズ）他人ノ土地ヲ通行スルノ権水流ヲ分チ取リノ権牧草ヲ用フルノ権ナリ是ホハ皆一ノ土地ノ所有者ガ隣地ノ所有者ニ譲与スル権利ナリ

仮令バ予ガ所有セル土地アリ街路ニ甚タ遠ク肥培品又ハ収納物ヲ運送スルニ甚タ便利ニテ隨テ多分ノ入費ヲ要スルナリ是ニ於テ予ガ一人乃至数人ノ隣地所有者ニ乞フテ其地内ヲ通行シテ運送スルノ許シヲ受ルナリ是就テハ双方相談ノ上些サノ償金ヲ拂フナリ然レトモ概シテ耕作ノ妨ケト為ラザルトキニ於テ此運送ヲ為ス事故隣地損害ハ殆ンド無クシテ予ガ利益ハ甚タ大ナルナリ

又予ガ所有地ニハ水源無クシテ隣地ニハ水源アルカ又ハ河ノ流レアルカニ於テハ其隣地ノ所有者ニ乞フテ此水ヲ分チ取ルノ許ヲ受ルヲ得可シ是レハ其隣地ニ害無クシテ予ガ為メニハ大ナル便益アルナリ

以太利ニテハ地形甚タ凹凸ニシテ水利甚タ悪シケレバ斯約束ハ他ノ諸国ヨリモ最モタクシトス又該国ノ民法ニ於テハ水ノ充分アル地ノ所有者ハ別段償金ヲ取ラズシテ水ニ乏シキ者ニ用立シムルノ義務アリトセリ

牧草ヲ用フルノ義務モ亦約束ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得可シ一ノ所有者ハ其隣地ノ所有者ニ乞フテ已レノ畜類ヲ其地内ノ牧場ニ

故テ之ヲ畜ノ許シヲ受ルナリ是レハ廣キ牧場ヲ有スルモノヽ為メニ
ハ之ガ為メニ損害ヲ受ル[ト]云ハ殆ンド無クシテ却テ牧場ヲ有セズ
唯耕地ノ肥培為メ又ハ運送ノ為メニ畜類ヲ養フモノニハ利益アル
ナリ
又此外ニ隣地内ニ砂。石。石炭。其他耕作ニ必要ナル品ヲ取ルヲ許
スノ義務アリ
斯ノ如ク義務ガ増スヤハ自ラ隣地ノ所有者ノ間ニ諍訟ヲ繁クナス
ノ不都合アルト云フヿヲ論シタル者アリ此論ノ如キモ或ハ然ルヿアラン然
レモ此ガノ不都合ヨリモ其利益ノ多キヿ甚タ遥多ニ居ルナリ元来都
テ人ノ交際ハ自然爭訟ヲ引起スモノナリ貸借賣買其他都テ

ノ契約ヲ為スニ於テハ此等ノ不都合アルハ勿論免レザルヿナレ𪜈之レ
ガ為メニ人ノ此等ノ契約ヲ為スヲ不都合ナリトナシ之ヲ止メント欲ス
ルモノハ蓋シ[之レ]莫カル可シ
都テ人間交際ノ間ニ在テハ実益ノ側ラニハ常ニ必ス不都合アルモノ
ナリ故ニ其利ヲ棄テズ其害ヲ減スルヿヲ勤ム可キモノナリトス
以下第三説[所有ノ権ヲ譲与スル事]ノ事ヲ陳述セン此第三説ニ於テハ其所有
権ヲ徑濟ノ[真]理ト民法ノ原則トニ照合シテ其是非曲直ヲ検究セン
殊ニ今正院法制局[中]ニ於テ講義ヲ為スヿ[ニ]故此事ハ最緊要ナリ
ト信スルナリ
即チ爰ニ所有ノ権ノ譲渡シ[トランスミッション]ノ事ヲ説明セン

元来所有ノ権ノ最要ナル権利ハ其所有地ヲ賣リ抵ト共ニ欲ス
ル侭ニ之ヲ他人ニ譲ルヿヲ得ルヿヲ得可キト云ヿナリ即已レノ権利
ヲ賣リ又ハ之ヲ譲ルヿヲ得ザル所有者ハ其物ノ真ノ所有者ニ
非スト謂フ可シ
故ニ何レノ國ニテモ人々私有ノ法ヲ許ス國ニテハ之ヲ賣リ之ヲ譲ル
権利ヲ生スルハ勿論ニテ之ヲ賣ル等ノ権利アレバ一方ノ者ノ為メニ
ハ必ス之ヲ買取ル権利ヲ生シ来ルナリ
今日本ニテ外國人ニ土地所有ノ権ヲ許スニ就テノ利害ハ別段
問議セラルヽヿ無ケレバ敢テ陳述スルニ及ブマシ然レドモ唯爰ニ土地ヲ買
取ルノ権ヲ禁シタル以上ハ即チ之ヲ彼ニ賣ルノ禁アルヿニテ現ニ土

地ヲ所有スル内國人民ノ権利并利益ヲ減却スルニ當ルナリ
外國人ヲシテ内國ノ土地ヲ所有セシムルニ就テノ徑濟上ノ效驗ハ理論
上ニ於テ而已ナラス猶他國ノ実験ニ於テモ証拠立ツルヿハ容易ナリ
佛國ニ於テモ亦此事ニ就テハ甚々著シキ先例アリ
然レドモ爰ニハ先ツ内國人民ノ間ニ於テ土地ヲ譲賣ヲスベテ謂フ スルノ権利ノ事
ノミヲ講究セン
都テ土地ヲ譲与スルヿニ付テハ二箇ノ公同ノ利益アルヿハ各國ノ実験
ニ於テ既ニ明ラカナリ其二箇ノ利トハ即チ
第一ハ所有ノ権ヲ移スニ付テ政府ノ収税ヲ増スノ利益ナリ即チ
一ノ租税ニシテ是ハ亦自ラ利益モアリ又不都合アレドモ此事ハ生財共

消縻ノ事ニ付キ租税ノ働キヲ述ル時ニ至ツテ尚詳カニ之ニ論及セン

第二ノ利益ハ之ニ由テ別段不都合ヲ生スルヿ無シ其利益トハ總テ所有ノ権ヲ他人ニ移スヿハ是ニ由テ自ラ其譲受ケタル物ノ改良ヲ為スニ至ルモノナリ何レノ時代ニテモ何レノ国ニテモ新々ニ土地等所有スルモノハ多少ノ金銭ヲ費シテ其物ノ改良ヲ為スモノナリ

又都會ノ家屋ヲ譲受ケタルヿハ其新所有者ハ内部ノ造作ヲ修覆シ借屋ノ價ヲ増ス可シ然ルヿハ其家ハ他人ニ貸シテ入額ヲ多分ニ収ムル故已レ一個ノ利益ヲ為シ又隨分身代ノ豊カナル者ハ自ラ便利且ツ養生ニモ適ヒタル家ニ住居スルヿヲ得ル故即他人ノ為ニモ亦利益アルナリ

又遠鄙ノ地ニ庭園其他遊ヒ場ノ附属シタル家ヲ買求メタルヿハ其新所有者ハ幾何ケカノ入費ヲ掛ケタル迚テ已レノ為メニ別段利益ハ莫アレヒ其使役シタル職工ノ為ニ何程カノ益ヲ為スノ理ナリ

又耕地又ハ耕作ニ用フ可キ土地ヲ買得タルヿハ其新所有者ハ其既ニ耕作ニ用ヒタル土地ヲ改良シ又ハ未タ耕作セザル地ヲ開クヿハ固ヨリ断然ナリ故ニ全備農具ヲ用ヒ獣蓄ヲ蓄フ等ノ入費ヲ施ス可シ去レバ此入費ハ既ニ其品物ヲ賣リタル者ノ為メニ利益アリ又其入額ヲ増シ近隣ノ耕作人ニ善キ模範ヲ示スニ於テハ殊ニ又其利益アリ何トナレバ農民ト云フモノハ兎角ニ新奇ノ事ヲ好マザレニ他人之ニ先タツヿ之ヲ実験シ且ツ後テ疑ハシキ事ヲ行ヒ不慮ノ損失ヲ招クノ患無キヲ以テ自ラ

之ヲ執行スルニ至ルモノナリ

夫レ故ニ所有ノ権ヲ譲渡ス事ハ政府ヨリ之ヲ勧奨スルヿヲ得ザルトニ成ルベク丈ケ之ヲ所有者ノ自由ニ任セ置ク可キ事ナリ

○今改羅巴諸國ニ於テ不動産賣拂ヒノ自由ヲ限制セル者一アリ是ニ付テハ久キ以前ヨリ經濟学家ノ論説アルヿナレトモ法律家ハ反テ之ヲ助ケ之ヲ保護スルノ説ナリ助ケ嫁資トナシタル不動産ヲ賣拂フ可カラザリ事是ナリ

嫁資トハ婚姻ノ時結縁中ノ諸入費ニ充ル為メニ婦持参スル財産ヲ云フ

又時依リ夫婦ノ財産ヲ共通シテ所有シ殆ンド組合ノ如ク為スヿアリ此場合ニ於テハ夫婦ノ財産ハ自由ニ賣拂フヿヲ得ベシ又殊ニ其夫ナル者ハ婦ノ兼諾ヲ待タズシテ之ヲ賣拂フヿヲ得可キナリ

又一ノ法アリ婦ハ已レノ不動産ヲ元ノ如ク別ニ所有シテ更ニ夫ニ之ヲ與ヘス夫ハ只結縁中其不動産ノ「ユシユフルーユサ」ノ権アルノミ此法ニテハ婦ハ自ラ欲スル儘ニ所有ノ財産ヲ賣拂フヿヲ得可シ然レトモ之ニ付テハ其夫又ハ裁判所ノ允許ヲ受ルヲ要スルナリ」

又爰ニ一ノ注意ス可キ法アリ其法トハ婦ノ嫁資ヲ以テ嫁資分拾ノ法ニ立ル事是ナリ此法ニテハ夫ハ勿論婦ト雖モ不動産ヲ賣拂フヿヲ得ザルナリ又此賣拂トハ一二ノ格段ノ場合ノ外裁判所ニ於テモ之ヲ許スヿヲ得ザルナリ

不動産ノ斯ノ有様ハ一般ノ公益ノ為メニハ甚タ悪シ此法ハ印羅巴ノ南部ニ多クシテ北部ニサシテ又佛国内ニ於テモ亦同様ニテ南部ノ洲ニ於テハ北部中部ノ諸洲ヨリモ多ク行ハル所ノ譯テハ古羅馬ノ律ニ於テ嫁資分括ノ法アリシニ依テ自然如此タル有様ニ至リシナリ是ハ実ニ南部ヨリモ北部ノ国ガ富饒ナル所以ノ原因中ノ一個ナリ」

前ニモ陳ヘタル如ク経済学家ハ嫁資分括ノ法ヲ廃止セント欲スルニ法律家ノ説ハ之ニ反シテ此廃止ノ論ヲ拒ミタリ抑モ其二説互ニ相反シタル由縁ト云フモノハ元来法律家ハ新タニ財ヲ得ルヿニ力ヲ用ルヿナク既ニ得タル財ヲ保存スルヿヲ専ラニ勤ムル故夫ト妄リニ射利ノ為ニ軽率ノ事アリ是時トシテハ行状ノ不良ナル者アリテ婦ノ財産ヲ蕩尽シテ其困難ヲ招カンヿヲ慮リ頻リニ婦ハ婦ノ財産ヲ別ニ保存シテ以テ寡婦トナリタル時ノ為メニ備ヘ又ハ其子其親族ノ為メニ供センヿヲ欲スルナリ」

昔時羅馬ノ時代ニハ法律家ガ之ヲ保護スルニ別ニ一ノ原因アリタリ其原因トハ一タヒ離婚シタル婦ノ再嫁スルヲ容易ナラシムルガ為メナリ然ルニ我国方今離婚ヲ許サズシテ其嫁資分括ノ法ノミ今ニ存スルト云フハ甚タ理無キ事ナリ

是ニ由テ見レハ嫁資分括ノ法ハ人々各個ノ為メニハ利益アルヿナリト雖モ現ニ不動産ノ融通ヲ妨碍シテ大ニ一般ノ財ヲ害シ一般

ノ公益ニ毒害スルモノナリ總テ嫁資分捨ノ法アルガ為メニ不動産ヲ数代ノ間賣買セザルニ於テハ其生財ノカヲ減却スルヿ最モ甚シトス

此法ハ日本ニハ曾テ無キヿト考フ予モ亦自ラ法律家ナレトモ予ハ之ヲ日本ニ施スヲ冀ハザルナリ

第九回講議　二月十七日

前會ニ於テ所有ノ権ヲ譲與スル事ニ説キ及ヒタリ

若シ所有者ガ其財産ヲ譲与スルヿヲ得ザレバ其最モ大ナル利益ヲ失フヿアリ人ハ已ムヲ得ス住居ノ地ヲ轉シ又ハ職業ヲ更ユルヿアリ且ツ旦隨テ旧ノ如ク其財産ヲ所有シテ其利得ヲ収ムルヿヲ得ザル場合ニ到ルモノナリ故ニ其所有者ハ之ヲ譲与スルノ権無カル可カラザルモノナリトス

又都テ財産ノ融通ヲ障害スルハ一般ノ公益ニ害アリト云フヿモ説キ明シタリ

尤モ外國人ノ土地ヲ所有スルヲ許サヾルノ害マルヿハ経濟上ノミナラズ亦政策上ニ関スルヿタルヲ以テ此事ハ敢テ爰ニ陳述スルニ及バ

ヌフト察シタリ然レトモ唯土地ヲ買得スルノ権ヲ妨クルハ即土地ヲ買得スルノ権ヲ妨クルハ即土地ヲ譲与スルノ権ヲ妨クルナリ故ニ邦国人民ノ為メニモ亦障害ヲ生スルトヽ云フヿヲ述ベ置キタリ

又現今欧羅巴諸国ニモ所有譲与ノ権ヲ禁止スル法アリ殊ニ佛国ノ如キモ嫁資分括ノ法ヲ以テ夫アル婦ヲ保護スル為メニ此禁止ノ法アリテ法律家ハ之ヲ可トシテ論シ此法ヲ保護スルモノアレトモ経済家ハ皆同一味意シテ之ヲ非トセリ是レ亦前會ニ概畧ヲ陳述シタリ

○今日ハ遺物相続ノ権ヲ以テ財産所有ノ権ヲ移ス事ニ説キ及バン

就テハ先ツ始メニ此譲与ノ法ハ正當ナルノ性質如何ト云フヿヲ陳ヘ次ニ其緊切ナル（即チ生財ノ為メニ利益アル）ノ性質如何ノ事ヲ説キ明スヘキヲ要ス可シ

第一、所有者ノ死去シタルニ由テ其所有物ヲ譲与スルノ権アルハ即チ既ニ緊要ナリト論シタルニ永久ノ性質ヲ所有権ニ与ルモノナリ

然ルニ或ル理学者及ビソシヤリズム党ノ経済学家ノ説ニ凡テ所有者ノ死去セシトキハ其不動産ハ皆政府ニ取リ上ケ政府之ヲ他人ニ附與スル其附与スルニハ或ハ償ヲ求メス相應ノ者ニ與ヘ又ハ償ヲ最モ多分ニ出スモノニ償ヲ取リテ附與スルヿアルナリ、果シテ此説ノ如クスルトキハ既ニ其非ナルヲ陳述シタル如ク実ニ性質ヲ一変シタル「コムミユニズム」ノ説ニ陥ルニ到ルナリ又此説ニ從ヘバ到底畢生間ノ

所有トナルモノニテ既ニ陳ヘタル通リ生財ノ為メニ甚害アルナリ

之ニ反シテ人ノ勞力ヲ獻ハズ金錢ヲ惜マス盡力スルモ器リハ己レノ愛スル所ノ者又ハ其義務アル者ノ為メニ利益トナルヿヲ知ルニ於テハ其者ハ公ス土地ヲ肥沃ニシ又ハ家ヲ建築シ草木ヲ植付クル等ノ事ニ勞ヲ獻ヲ厭ハカル可キナリ

又理学経濟学ノ一流アリ佛國革命（千七百年代ノ末）以来殊ニ盛ンニ行レタリ其說ニテハ凡ソ人ノ財産ハ其所有者ノ死去シタルトキニハ政府ニ没収セズシテ他ニ讓与ス可キモノト為セタリ然レトモ唯此讓与ハ國法ニ隨テ為ス可キモノナリトセル故ニ其國ト其時ノ政体ニ從テ自ラ其原則変化ヲ免レザルナリ唯此学派ノ論スル所ノ目的

ハ當時封建政体ノ相續法ハ廢セラレテ別ニ一ノ相續法ヲ生シタルニ因リ猶其封建相續法ノ廢止ヲ堅固ニセント欲シタルナリ且封建ノ時ノ相續法ハ其元ト政体ノ原則ニ原キ出タルガ故ニ亦同リ政体ノ名ヲ以テ之ヲ廢シタレトモ実ハ人民各私ノ財産ヲ以テ正義公益ニ乖戻セル時々ハ変轉ニ隨ハシメタルナリ

元来人ノ死シタルニ依テ財産ヲ讓与スルハ先ツ第一ニ性理即正義正理ニ原キ出ツ可キモノニテ此原則ハ虚心平氣ニテ探索スルトキハ自ラ之ヲ発見シ易キモノナリ

其原則凡ソ三ヶ条アリテ其内一トテモ抛棄ス可キニアラズ其三条トハ即第一一族ノ者ニ對シテノ通義第二親族ノ為メニ仮リ定メ

タル情愛

第二 各人所有ノ財産ヲ處分スルノ自由

第三 若シ各人ノ身親カラ其相續方ヲ指定セザリシ中法律ニ於テ其相續方ニ付キ其人ノ指定ニ似寄リタルモノヲ以テ之ヲ處分スルヿ是レナリ今茲ニ之ヲ詳說セン

第一 一族ノ者卿ケ父母ニ對シテ親愛并ニ通義

人ノ子アルモノハ其貧富ニ從テ各ヽ相應ニ之ヲ養育スルノ通義アリ又其父母ニ對スルモ亦其之ヲ要スルニ至テハ均シク斯通義アリトス

此二個ノ通義子ニ對シテ及ビ父母ニ對シテ養給ノ通義アルヲ云フヲ有シ又ハ其一個ヲ有スル者未タ死セザルノ間ハ其義務ハ連續シテ絶ヘザルモノニテ庶シド一日モ之ヲ行ハザルヲ得ルノ日アル可カラザルナリ

又此養育ハ其者ノ資金ノ内ニテ之ニ給ス可キモノニアラズ其所得ノ入額ノ内ヨリ給スルモノニテ是ハ全ク當然ノ事ナリトス何ニトナレバ其義務アル者生存中ニ其資金ノ一分部ヲ給与ス可キトセバ其一部ヲ受ケタル者粗魯ニシテ終ニ之ヲ散失スルトキハ更ニ再ビ之ヲ与ヘンニ到ル可キナリ

然レドモ其死去スルニ臨テハ未來ノ為メニ最終ノ通義ヲ行フモノニシテ其親族ニ財産ノ一部ヲ讓リ渡スヿアリ是ハ之ヲ受ケ取リタル者便宜ニ使用スルトキハ其者ノ為メニ一ノ家産ヲ生スルナリ

然ルニ何等ノ親族ニ對シテ此通義ヲ盡ス可キヤト云フニ其子即已レノ産ミタル者及ビ其尊屬ノ親即チ已レヲ産ミタル者是ナリ

去レバ第一ニ此通義ヲ盡ス可キスモノハ已レノ子ナリ而カシテ此所

謂子ト云フモノ、内男子ト女子トノ別ヲ立ツ可キヤ又此男子ノ内ニテ
長子ト次子トノ別ヲ立ツ可キヤ又養子ハ如何ニ處ス可キヤノ問
題アリ
今日相續法ハ國法上ニ原カズシテ性法ニ由テ之ヲ定立スル以上ハ
長子ト次子トノ別ヲ為シ男子ト女子トノ違ヒアルノ理ヲ見出スヲ
得ザルナリ蓋シ男女長次子トモニ父ヨリ平等ニ給与ヲ受ルノ権
利アリ又其父母ノ死後ニハ皆平等ニ其財産ヲ分チ受ク可キモノニ
テ之ヲ以テ其生計ヲ営ミ又サナクモ営業ノ資本ト為スヿヲ得ル
ナリ
封建ノ時代ニハ貴族ノ領地并称号ハ分割スルヿヲ得ス且其事

ニ趣ク(脱ス)ノ義務アル故是非トモ嫡子ヲ立テ且男子ニ限リテ相續セシ
ムルノ法ヲ生スルナリ然レトモ人民平等ノ国体ニ至テハ一族中ニ斯ノ如
キ不平均アル可キニアラザルナリ
又封建政体ハ廃セラルヽモ長子ハ父ニ代リテ幼年ノ弟妹ヲ保養ス
可キ者ナレバ父ノ財産ヲ長子ニ譲ルト云フヿハ差支ヘナシト云フ説モア
リ
然レトモ是ハ実際ノ害アリ長子タル者ノ弟妹ヲ愛スルハ兎角父ノ
子ニ於ケルガ如キ情愛ニハ及ハザルモノナリ從テ長子ノ其義務ヲ盡ス
ハ甚タ難ク且未十分ナルモノナリ又其幼弟ハ之ニ於テハ兄ニ屈シテ其
養育ヲ受ルトモ自ラ父ニ對スルガ如ク尊敬ノ心無カル可シ又殊

ニ其長子婦ヲ娶トリ別ニ一家族ヲ為スニ至テハ其長子ト其弟妹トノ関係ハ次第ニ薄クナリ自然其弟妹ノ教育ホニ怠リ其無学貧困ニ陥ルヲ顧慮セズ竟ニハ不良ノ徒トナルニ至ル可シ斯ノ如キハ実ニ世間一般ノ為メニ恐ル可キ害ナリトス

又女子ハ他ニ嫁スルトキハ其家ニ於テ更ニ生計ノ道アリ且其嫁スルトキニ當テ其嫁資ヲ以テ他人ニ求メラレス其徳行ヲ以テ撰ブル方却テ已レノ幸福ト為ル可シトノ説モアレトモ到底其女子ノ為メニモ其害少ナカラザルナリ

其害アル所以ト云フモノハ第一ニ日本自今ノ制度ニテハ女子ノ父ノ遺産ヲ相續ス可キモノニ非ストモ必ス父ノ富メルモノヲ擇ミテ結婚ス可シ何ニトナレバ其女子ノ夫其父ノ養子トナルヿヲ得レバナリ然ルトキハ父ノ遺産ヲ受ケズシテ其父死シタル時ハ其女子ノ為メニハ現ニ不幸ヲ招クナリ

又日本其他何レノ國ニテモ容姿天然ノ美アラザルモノアリ是等ノモノハ平素ノ行狀良善ナルモ自ラ饒カニ過活スル能ハザルノ恐レアリ而カルニ僅カナリトモ嫁資アルトキハ其夫タル者ノ営業ヲ助クルヲ以テ自然康福ナル生活ヲ保ツヲ得可キナリ

又此他女子ノ嫁資ヲ要セズト云フ説ニ従ヘバ一タビ夫ニ離別セラルヽニ至テ已レノ所有財産ナク且再嫁スルニ易カラズ到底離婚シタルキノ用意ナキナリ

又一ノ害アリ女子ノ他人ニ嫁スルヲ欲セザルニ於テハ畢生間其兄ニ従
属シ雇賃ナク殆ンド下婢ト同様ニ役セラレ到底其制抑ヲ免レズ
又其兄ノ死去スルニ到テハ竟ニ全ク其資産ナキニ至ルナリ
是等ノ有様ハ立法ニ任スル者ハ最モ注意ス可キ事ナリ啻ニ正理ト
徳義トヲ論ス可キノミナラス其疲弊困難ノ有様ヨリ世間一般ノ害ヲ
生スルヿモ亦深ク察ス可キ事ナリ
諸國ニ往々アル事ニテ各個ノ怠惰又ハ不慮ノ災難ニ罹リ悶然ノ有
様ニ至ル者アレモ其悶然ニ至ル原因法律ノ完美ナラザルニ由ルモノ
ノ如キハ実ニ恐ル可キ災害ナリト云フ可シ
古ヘ佛國封建ノ時代ニ長子ニ父ノ遺産ヲ与ヘシヿアレモ僅ニ貴

族中ニ行ハレタルノミニテ他ノ人民ノ如キハ絶テ此等ノ風習ナカリシ
ナリ且其次三男以下ノ者ニ至テハ寺院ニ入リテ其過活ノ資金ヲ得
且位爵ヲモ得ルヿ屢アリ又女子ノ嫁資ナキモノハ「クウヴハン」尼寺ノ如
キ者ニ入リテ愁フ可キ有様ナレモ諾マリ貴重ナル過活ノ方法ヲ得
サクモ困難ヲ免レ不良ノ徒トナル大ケノ事ヲ避ルヿヲ得可シ
亡モ是等ノ事ハ日本ニハ見ヘザル事ト考フ
英國ニテハ今日ニ至テモ猶立嫡法アリ是モ亦唯貴族ノ中ニ行ハルノナ
リ此國ニテハ二三男以下ノ者ハ皆ナ二三ノ特権アリ仮令バ士官トナリ僧
侶トナリ(尤妻帯ヲ許ス)又ハ商業ヲ為スナリ此商業ヲ開ク為メニハ
必ス父ヨリ其資金ヲ給シ又ハ其死去ニ臨テ資金ヲ遺贈スルヿナリ

又貴族ノ女子ハ父ノ相續ヲ爲スヿナシ但シ其父ハ必ス生命受合ノ法ヲ以テ其死スルニ至テ彼ニ拂フ可キ金額ヲ蓄ヘ置クヿナリ且其生命受合ノ法ハ今代ノ最モ妙ナル法ナリ此受合ノ事ハ節儉共消費ノ事ヲ論スルニ到テ詳論セン又此法ノ日本ニ於テ節儉ノ考ヘト其習慣ヲ起ス爲メニハ実ニ切要ナルヿヲ説明セン

第十回講議 二月廿二日

前會ニ於テ凡テ遺物相續法ハ國法ニ從テ定ムル可キ事ニアラズ性法即正義及道理ニ源キテ法ヲ立ル可キモノナルヿヲ粗〻陳述セリ今日ノ講議ニ於テハ此不足ヲ補ハントスルナリ

尤モ此説キ明シハ都テ正義ト道理ニ適フモノハ則チ一般ノ公益トナリ即經濟ノ理ニ合適スルモノナルヿヲ説明スニ至ル端緒ナリト知ル可シ

又前會ニ於テ人タル者ハ其子及其尊屬親ニ對シテ絶ヘス負擔ス可キ通義アリテ其畢生間ハ殆ド一日モ之ヲ実行セザルノ日無カル可ク又其死セントスルニ臨テハ已レノ財産ノ一部ヲ贈遺シテ未来ニ行フ可キモノヲ最終ノ一回ニ纏メテ之ヲ行フ可キ事ヲ陳述セリ

若シ其死スルニ臨テ其子并其父母ヲ残シタルトキハ其子ノミ獨リ其父死去シタル
ノ遺産ヲ相続ス可キナリ何ントナレバ其死者ノ尊属親タルモノ過活ニ苦
シム等ノ場合ニ至テハ其孫ナル者其父死去シタル二代テ父同様ニ之ヲ給養スルノ
通義アルナリ
是ニ由テ考ルトキハ子タル者ハ父ヨリ子ノ為メニ蓄積シタル財産ヲ受ル権ア
ルヿハ明カナリ又其権利ハ父ヨリモ奪ヒ取ル事ハ出来ヌモノトス（尤モ法律
上ニ定ムル重キ悪事アルトキハ別段ナリ）
此相続人ノ為メニ残シ置ク財産ハ何レノ国何レノ時代ニモアルモノナリ既ニ
佛国其他都テ郎馬ノ律法ノ行レシ国ニテハ此子孫ノ為メニ蓄積スル財産
ヲ「レシゲーム」ト称シタリ今日ニテハ之ヲ「レゼルブ」トカ又「レセルブ、ユレジテ

ール」ト称スルナリ此各目ハ以前ノ各目ヨリモ明ラナリ
此「レゼルブ」ヲ子ニ贈遺スルハ則父ノ通義ヲ満タシタルモノナレバ男女長次
子ノ差別無ク所有子ニ与フ可キナリ故ニ之ヲ平等ニ分配スルナリ
英国ト亜米利加合衆国ニ於テハ特リ此各国普通ノ法ニ反ケリ然レモ此
両国ニ於テ父タル者已レノ子ニ財産ヲ遺サス又長次子平等ノ権ヲ破ルノ
権アレドモ其父タル者ハ自然非道ニ此権ヲ行フ事ハアラザルナリ
此両国ノ別段ナル法ヲ爰ニ詳悉スルノ時間無キ故姑ク此事ヲ陳ベタル書ニ
譲リテ爰ニ略ス（千八百七十三年出板「ヒストアール、ド、ラ、レセルブ、ユレジ
テール、ユー、ド、ソン、ナンフリユヤンス、モラール、ユー、ユコノミック」
此遺物相續法ハ三個ノ原則ニ原ツク可キヲ述ベタリ則其第一原則ナル

父子ノ恩義ハ是迄ニテ説キ終レリ依テ以下其第二ノ原則ニ説キ及フナリ

一族ノ者ノ為メ死ニ対シテノ愛情并

第二　凡ヲ財産ヲ所有スル者ハ自由ニ已レノ財産ニ處分スルヲ得可キ事

ナリ是ハ実ニ所有ノ権ヨリ當然ニ生ス可キ切要ナル効驗ナリ

然レモ此財産ヲ自由ニ處分スルノ権ハ父子ノ通義ト相觸レザル様ニナス可キ

ナリ

夫レ故ニ此通義ヲ以テ此権利（財産ヲ自由ニ處分スルノ権利）ヲ限制ス可キナリ又父ノ死後ニ

至テ子ノ願ヒニ因リ財産中ノ或ル部分ノ譲渡シヲ辯論シ又ハ減殺シ又ハ取

消スヿヲ得可シ

然レモ外ノ同様ナル償アルモノヲ受取リテ之ヲ譲渡スニ於テハ辯論スルヲ得

ザルナリ仮令ハ賣拂ヒ、交換、會社差金、其他凡ベテ法律家ノ所謂償ヲ

受クル譲渡シナル者ヲ云フ」

然レモ其償ヲ受ケズ（即同様ナル償アルモノヲ受取ラズシテ）譲渡スモノハ

其者ノ自由ニ處分ス可キ部分ヲ喻（子ノ多ノ遺レ置ク可キ財産ノ高

ヲ減スルニ於テハ其譲渡シタル内ヨリ其過分ヲ減殺ス可シ

此償ヲ受ケザル譲渡シハ二種アリ生存中ノ贈遺及遺嘱ノ贈遺是ナリ

此二種ノ贈遺ノ差別ハ今此學ニ於テ論スルニ及ハズ是民法ノ部ニ属ス

ルナリ

又此外ニ一種ノ贈遺アリ即養子ノ制是ナリ印度ハ別段ナレモ其他ノ国

ニ比スレバ日本ハ最モ多ク養子法ノ行ハル国ナレバサレク爰ニ説キ明ス

可キヿナリトス

印度ニハ養子ニ十二種アリ然レトモ嫡出ノ男子アル者ハ養子スルヿヲ得ザルナリ

古ヘ希臘ニテモ是ト同様ニテ只是トサシク異ナル所ハ男子無クシテ女子ノミアルモノハ其婚ヲ以テ養子ナスヿヲ得タリ

郎馬ニ於テハ嫡出ノ子アルモノハ（男子女子ニ限テズ）他人ヲ養子スルヿヲ得ザリシナリ（又親属ニテハ猶更ラ養子スルヲ得ズ）

佛國ニテハ革命（千七百八十九年）以前ハ仮令実子無キモノト云ヘトモ亦養子スルヲ得ザリシカ今日ニテハ実子無キニ限リテ之ヲ許セリ且又五十年以上ノ者ニアラザレバ養子スルヲ得ズトセリ五十年以上ニ至レバ最早実子ヲ擧クル可カラザル可キヲ以テナリ

故ニ是等ノ法律ハ甚タ簡便ニシテ養子スルノ権利ト親タルノ義務トノ権衡ヲ保タシムルモノナリ或ハ寧ロ其権利ヲ抛テ其義務ヲ保全シタルモノト云テ可ナランカ

然シナガラ子無クシテ両親アル者一子ヲ養子シテ是ニ遺産ヲ相続セシムルヿアリ此場合ニハ子タルノ義務ヲ棄テ、養子スルノ権利ヲ保チタルナリ然レトモ五十年ニモ至レバ最早其父又ハ母ノ生存スル者ハ寡モ稀レナルモノトス尤モ何レノ場合ニテモ財産中ノ一部分ヲ父母ノ為メニ残置クノ法ナキハ実ニ遺憾ノヿナリ

日本ニテハ法律ニテモ習慣ニテモ実子アル者ノ養子スルノ禁ハアラザル由ナリ是ハ愚考ニテモ又其他以上ニ記シタル法律ヲ可トスル論者

ハ皆性理法ニ適ハザル法律ヲ可トスル論者ハ皆性理法ニ適ハザル法ナリト
云フ可シ
且斯ノ如キ養子法ハ印度ノ宗教上ノ考ニモアラス又自然ノ情愛ニ
出タルニモアラス又経済上ノ原則ニ基ツキタルニモアラザル可シ
以下相續法ノ基ヒタル第三ノ原則ヲ説キ明サン

第三　今爰ニ一人アリ已レノ財産ヲ生存中ニモ又遺囑ニモセヨ人ニ授
与スルホノ處分ヲ成サザルニ於テハ其死去セシキハ其財産ハ如何ニ處
分ス可キノ問題アリ
此事ニ付テハ法律上ニ於テハ仮リニ其死者ノ情愛ヲ推察シテ之ニ由テ
其財産ヲ贈遺スルナリ故ニ此處分ハ甚タ容易ナルナリ

何レノ國ノ法律ニテモ先ツ第一ニ死者ノ子ニ相続セシメ其他ノ親属ハ
其次キニ送ルヿナリ
女子并次ニ男ヲ除キテ長男子ヲ以テ相續セシムル法ハ国政上ニ基ク
ナリ
死者ノ情愛ヲ仮リ定メテ相續人ヲ立ツルノ法ニ於テハ其子ニ長次子
ノ區別ヲ立テズ一般ニ相続セシムルナリ
男女子共若シ父母ニ先ダツテ死去セシニ於テハ其先キニ死去セシ者ノ子其
父ノ名代トナリ今死去セシ者ノ遺財ノ一部ヲ受クルナリ
子孫等卑屬ノ親ナキ者死去スルニ於テハ其父母又ハ其他ノ尊屬親
之ヲ相續スルナリ然シ此場合ニ於テハ兄弟姉妹ノ如キ他ノ親族モ共

ニ之ヲ相續セ可キナリ

其他ノ親族ハ親疏ニ從テ各相續スル順序アルナリ

又一般ニ宗系ノ親ト外族ノ親トハ共ニ相續スルナリ

尤モ事ニ付テハ諸國ノ法律一樣ナラス

國政上ヨリ起リテ成ル可ク丈ケ一族中ニ財産ヲ保存セント欲シタル法アリ此法ニテハ遺物相續ヲ以テ死者ノ受取リタル不動産ハ皆始メ之ニ讓与セシ方ノ親ニ相續セシムルナリ（始メ本宗ノ親ヨリ受ケシ財産ナレバ之ヲ本宗ノ親ニ相續セシメ外族ヨリ出タルモノハ之ヲ外族ノ親ニ相續セシムルヲ云フ）故ニ此相續法ニテハ死者ノ相続ヲ定ムル為メニ其財産ノ出處ヲ尋ヌルナリ

佛國ニ於テモ革命迄ハ此法ヲ行ハレタリ

又一ノ法アリ人ノ財産ヲ自由ニ融通シ且多分ノ財ヲ一族中ニ聚集スルヲ嫌ヒテ都テ財産ヲ本宗ト外族ノ親ニ二分セルナリ是ハ即目今佛國ニ行ハル、法ナリ

向来日本ニテ追々遺産相續ノ法ヲ改革セラルヽニ至テハ此等ノ一ハ宜シク詳論ス可キヿト考フ

○之ヲ約言スレバ正義ト道理ニ從ヒ即性理上ニ於テ論スルキハ相続法ニ関ワテ財産ヲ分派スル最良法ハ一ハ子ノ為メニ遺シ又ハ尊属ノ親ニ贈ル可キ（卑属ノ親無キニ於テハ）財産ヲ蓄積スルノ義務ヲ以テ償ヲ受ケズ財産ヲ授與スルノ権ヲ限制スルナリ又一ハ償ヲ受ケズ人ニ授與シタル（分ハ、下ニ處分ス可キ部分ヲ）ナキ場合ニ於テ其死者ノ親属ノ中

親疎ニ依リ即到底其仮リ定メタル情愛ニ依テ相續セシムルヿナリ

次會ニ於テハ子ノ為メニ財産中ノ一部ヲ殘シ置ク事及平等分派ノ経濟上ニ於テ如何ナル感觸ヲ生シ来ルヤヲ説明セン